



かがやきプラス 小学生 家庭版

テーマ 親子のコミュニケーション

「子供たちの心の中にある “甘える壺” を満たすために」

多賀クリニック院長 ^{たが かずゆき} 多賀 千之

すべての子供たちは、心の中に“甘える壺”を持っています。その甘える壺を一杯にするためには、何に気を付けたらよいのでしょうか？ 甘える壺が一杯になり過ぎると、甘ったれになってしまうのでしょうか？ “甘やかす”と“甘えさせてあげる”は、どちらがうのでしょうか？

いっしょに考えてみましょう。

下の子も、上の子も、誰だって、甘えたいのです。お母さんだって、ご主人かご両親か友人か、誰かに甘えることができたなら、心が満たされて幸せな気持ちになるでしょう。子供なら、なおさらです。子供たちの心の中には“甘える壺”があるのだと思います。その甘える壺の形は、一人ひとり違ってきます。

下の子の甘える壺の形は、一番下としていつも甘えることができるので、生まれた時から大きくなるまで、同じような大きさでしょう。一方、上の子は最初お母さんを独占していますから、とても大きいのですが、下の子が生まれることで、どうしても小さくなります。しかし、人生の流れの中で、再び大きくなることもあるでしょう。きっと甘える壺は形こそ違え、最終的な大きさ・容量は、みんな似たりよったりなのだろうと思います。

この甘える壺に満足感を満たしてあげるのは、お母さんが一番です。もちろん、お父さんや他の家族も大切ですが、一番たくさん満たしてあげることができるのは、お母さんです。お父さんや他の家族に協力してもらおうと、より簡単に満たしてあげることができます。

この甘える壺を一杯にするための原則、甘えさせてあげるための原則は、

① “1対1”の時間を大切に。

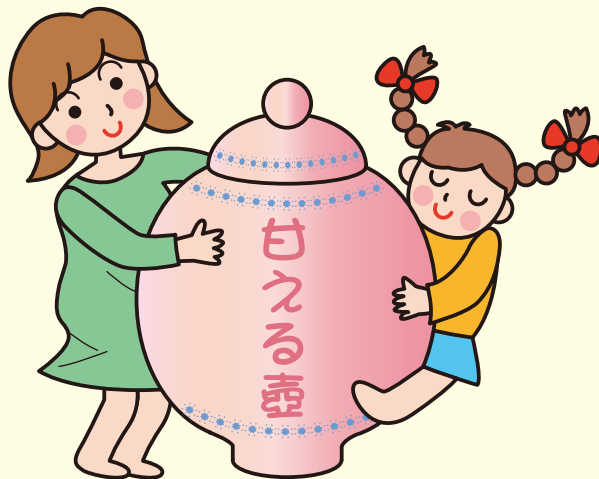
甘えさせてあげるためには、甘えられる環境が大切です。彼女が彼氏に甘える時、たくさんの人の前では甘えることはできないでしょう。それは、子供でも同じです。下の子

がいる時には、上の子は遠慮して心置きなく甘えることはできないのです。ですから、上の子とお母さんが“1対1”になる時間を探しましょう。そんなに難しいことはありません。お風呂に一人ずつと入ってみましょう、習い事の送り迎えをお母さん一人ですてみましょう。無理やり長い時間を作る“努力”をするのではなく、短い時間を見つける“工夫”をしましょう。“1対1”の時、子供の顔の輝き、子供の話の量が格段に違うのが分かりますよ。

このようにして、上の子の甘える壺が満たされると、上の子が下の子を可愛がってくれます、けんかが少なくなります。誰しも、満たされていれば、分け与えることができるのです。

② “甘えさせてあげる”と“甘やかす”は違う。

甘えさせてあげると甘やかすは、どう違うのでしょうか。甘えさせてあげるとは、スキンシップや態度や言葉によって「あなたのことを見ているよ」という安心感を与えることです。甘やかすとは、お母さんや大人の都合に合わせて、子供の気持ちを物や金で埋め合わせすることです。物や金をもらうことで子供は喜びますが、甘える壺は満たされません。嬉しいと満足は違います。言い換えると、甘やかすとは物や金を与えることで、甘えさせてあげるとは、あな



たの時間を与えることなのです。たっぷり甘えさせてあげることにより、甘える壺はしっかりとした重さを持つようになり、子供たちは心身の安定感を獲得し、自然に自立していきます。

甘やかすことにより甘ったれになるのであって、甘えさせ過ぎても、甘える壺がいっぱいになっても、決して甘ったれにはなりません。甘える壺があふれるくらいに、甘えさせてあげて下さいね。

③小学校6年生まで“甘える壺”を意識する。

小学校に入る頃から“第2反抗期”になり、お母さんが



- “甘える壺”をいっぱいにしていけば、子供たちは自然と自立していく。
- “甘える壺”があふれていても、何ら支障なし。
- “甘える壺”はお母さんの工夫とお父さんの協力次第。
- “甘える壺”の大人版は“話を聴く”こと。
- “甘える壺”は一生続く。

手を出すことを嫌がるようになります。でも、まだそれは自立の練習をしているだけです。病気になって小児科外来を訪れると、6年生の子でも自分の方からお母さんに手をつないだりします。まだまだ甘えたい気持ちは残っているのです。中学生になると部活動が始まり、初めて自分で人間関係を作る練習をしますから、親は少し離れて見てあげた方がよいでしょう。社会人になった頃から、子供たちはまたお母さんに近付いてきます。それまで、じっと動かず、見守ることです。

Q

&

A

教えて、多賀先生！



多賀先生

Q 学校で「お子さんは、愛情不足ですね。」と言われました。どうすればいいのでしょうか。

A 子供がひどい赤ちゃん返りをしたり、情緒不安定や不登校になったりすると、保育士さん・先生や医師・カウンセラーの方から「愛情不足ですね」と言われることがあります。でも、どのお母さんも、どのお父さんも、毎日一生懸命に子育てしているのです。それなのに「愛情不足ですね」と言われたら、親失格と言われたようで落ち込んでしまいます。「愛は地球を救う」というキャッチフレーズがあるように、愛情はとても大切なものだと思います。でも、その愛情というものは、どのようにしたら子供たちに伝わるのでしょうか？ 子供たちが将来に「これが親の愛情だったのだろう」と感じることは、親が自分のために時間を使ってくれたことです。物や金を使ってくれたことではありません。愛情不足かなと思ったら、いっしょにお風呂に入るなど、1対1で時間を過ごすことを心がけましょう。

エピソード

子供の活動から垣間見た子育ての様子

高学年になると、宿泊体験を実施します。その中の野外炊飯活動の一場面です。グループでカレーライスを作ります。6年生女子のAちゃんは、ジャガイモ、ニンジン、タマネギを包丁で切っています。

「先生、見て、見て。Aちゃん、すごく切るのが上手だよ！家のお母さんみたい。」

「本当に上手だね。」

友達みんなからほめられたAちゃんは、少し照れながらも誇らしげな表情です。内心、これもお母さんのおかげだと思ったでしょう。

子供にお手伝いをさせるよりも、お母さんが一人でやった方が手早く済ませることができます。でも、Aちゃんのお母さんは、時間がかかっても一緒に料理を作っていたのでしょう。

一緒に料理を作りながら、「これはこうやって切るんだよ。」「だんだん上手になったね。」とか・・・。

日常生活の中で、子供と一緒に何かに取り組むことで親子のコミュニケーションが深められます。また、日常的な体験であっても、親から教わり身に着いたことは、その子にとっての自信につながっていきます。ましてや、そのことで友だちから認められることは本人にとってすごく嬉しいことです。

生涯学習課指導員

我が家の親子のコミュニケーション

「丸ごと受けとめる」ということ

(小3女子、小1女子の母)

子育てに関する講演会や育児書などで、「子供の『能力』ではなく『存在』を肯定しましょう」、「ありのままの子を丸ごと受けとめましょう」といった言葉をよく耳にしますが、簡単なようで難しいものだと感じることがあります。けれど、親の不器用さとは裏腹に、子供がいかに親のことを「丸ごと受けとめて」くれるかということに気付かされた出来事がありましたので、こちらに紹介したいと思います。

我が家の娘たちは、よく手紙を書いてくれます。夫や私の誕生日はもちろん、何でもない日に突然手紙をくれたりもします。先日、次女がくれた手紙には、小学校に入って覚えたばかりの拙い字で、このようなことが書かれていました。「おかあさん、いつもがんばってるね。なつやすみのおべんとうおいしいよ。(…中略…) おとうさんができることもおかあさんができないこともあるけど、おかあさんもおとうさんががんばっているよ」読んだ後、何とも言えない幸せな気持ちが、胸の奥にこみ上げてきました。子供なりに親の不完全さに気がついていて、その上で、「できることも、できないこともまとめて認めて」くれているのだと感じました。そして、そのように認められることがどれほど幸せな気持ちをもたらしてくれるかを、娘の手紙によって気付かされました。

親はもちろん子供が何か失敗したからといって嫌いになるわけではありません。子供に完璧を求めているわけでもないと思います。ですが、そのことをあえて子供自身に伝えている親はあまり多くないのではないのでしょうか。「丸ごと受けとめる」このことにおいて、親はむしろ子供を見習うべきなのかもしれません。

子供に機会を与えること

(小6男子の父)

2歳からネットに触れ、10歳になる頃には、自分専用のPCを使いこなしていた息子。彼は小さい頃から、「将来はゲームクリエイターになる」と豪語していましたが、親から見ればただ「ゲームに遊ばれているだけ」。これはなんとかせねばと考えたのが、さらにゲームに対する強い憧れを与える作戦でした。

2013年秋、金沢工業大学でゲームフォーラムが開催されました。講師は、ソニー・コンピュータエンタテインメントで、オープンプラットフォーム事業を推進する責任者の方たち。当日は、プレイステーションのゲームを、スマートフォンやタブレットなど、国内外のどのようなデバイスでも楽しめるような仕組みづくりの話になりました。フォーラムは、大学生・一般が対象。そこに息子と私は最前列に座って参加。案の定、大勢の参加者の中に小学生1人は目立ったようで、講義中、度々声をかけられ、逆に質問されるほどでした。

「これからゲーム作りをするために、やらなければいけないことは?」。講義後に彼がそう質問すると、講師の方はちゃんと彼の目線までおりてくださり、「三つあるよ。一つは、学校の勉強をきちんとすること。二つ目は、友だちやご両親、ご家族を楽しませること。三つ目は、アイデアのために何でも経験してみること」。そう教えていただきました。それ以来、彼はゲームのためには必要と、勉強に熱心に。この秋は小6で英検3級を受けるそうです。「機会」を与えて正解でした。

おふろだと、
いっぱいはなせる
はだかんぼなきもち

秋田県由利本荘市
小学校1年 須藤 凜

ままのひざ
わたしのこころの
じゅうでんき

埼玉県白岡市
小学校1年 野口 佳乃

話そうよ
スマホ見ないで
笑顔見て

静岡県伊東市
小学校5年 鈴木 ゆりあ

おかえりと、
飛びつくわが子を 抱きしめる
「あのね!あのね!」が盛りだくさん

栃木県真岡市
一般 橋本 美江

多賀先生の推薦する子育て参考書

●『子どもへのまなざし』（佐々木正美：福音館書店）

子供たちの心理が、まるで子供たちが書いたかのように、優しい言葉で丁寧に書かれています。かなり厚い本なのですが、お母さん方への講演を筆記したものなので、非常に読みやすいです。甘えることの大切さ、一人っ子のようにそれぞれの子供に“一対一”の時間をつくること、お父さんの役目は価値観をつくり人格をつくること、他の人を大切にすることによって自分も大切にされること。私（多賀）にとってバイブル的な至高の一冊です。

●『かわいがり子育て』（佐々木正美：大和書房）

前述の『子どもへのまなざし』を簡略化して、実際の子育てに即して書き直したものです。非常に読みやすく、非常に実践的です。初心者マークのお母さんに最適でしょう。

●『子どもが育つ魔法の言葉』（ドロシー・ロー・ノルト：PHP 研究所）

子育てで最も大切なことは何か、どんな親になればいいのか、というヒントがこの本の中にたくさん書かれています。最初のページにある『子は親の鏡』という詩を読むだけでも、とっても価値がありますよ。

◇家庭教育学級へのお誘い◇

親子で昆虫採集 お父さんの出番です



家庭教育学級は、育友会やPTAが中心となり、学校と協力して開設した学級です。会員相互の親睦を深めながら子育てについて話し合ったり、いろいろな講話を聞くことで、子育ての悩みを解消したり、子育ての力を高めていくのが大きな目的です。皆さんも積極的に参加してみましょう。

家庭教育講演会のお知らせ

- 日 時 平成 28 年 2 月 13 日（土）
15：00～17：00（予定）
- 会 場 金沢市教育プラザ富樫
- 講 師 多賀クリニック院長
多賀千之 氏

※開催時刻・申込み等の詳細は

- 金沢市広報新聞紙上掲載（1月）
- いいね金沢ホームページに記載（1月）

※問い合わせ先

金沢市教育委員会生涯学習課
家庭教育担当
Tel. 076-220-2441
Fax.076-220-2488

家庭教育の相談窓口の紹介

金沢市教育プラザ こども総合相談センター	①電話相談	お子さんや子育てに関する悩みごとについて、電話でお応えいたします。 (平日 9:00～21:00 土・日・祝日 9:00～17:00)	Tel.076-243-0874
	②こども専用 相談ダイヤル	子ども専用の通話料無料の相談電話です。 (平日 9:00～21:00 土・日・祝日 9:00～17:00)	Tel.0120-92-8349
	③いじめ電話相談	いじめに関する悩みごとについて、電話でお応えします。 (平日 9:00～21:00 土・日・祝日 9:00～17:00)	Tel.076-243-1019
	④虐待通報	子どもの虐待に関する通報を 24 時間体制でお受けします。	Tel.076-243-8348
	⑤児童相談所	18 歳までが対象です。相談内容は養護、保健、心身障害、非行、育成、虐待等です。(平日 9:00～17:45)	Tel.076-243-4158
金沢市家庭教育サポーター	身近な地域の家庭教育サポーターが相談に応じます。 (連絡先 金沢市教育委員会生涯学習課 平日 9:00～17:45)		Tel.076-220-2441

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」は、家庭教育について考えていただく目的で発行しました。

年 2 回の発行を予定しています。家庭教育にご活用ください。

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」へのご感想・ご意見がありましたら、下記までお知らせください。

〒920-8577 金沢市広坂 1-1-1 金沢市教育委員会生涯学習課 Tel.076-220-2441 Fax.076-220-2488

E-mail syougaku@city.kanazawa.lg.jp